

全酪連会報 2

2026 FEB No.725



若手後継者の本音／
能取湖畔酪農生産組合
熊谷 望さん

監査室だより／小規模な組織における
監査実施時の留意点について

令和7年度
全酪連・全国酪農協会会員職員研修会（後編）

酪農業に対する理解醸成活動報告⑧

日本酪農見て歩紀／
農事組合法人日登牧場
（島根県雲南市）

酪農トピックス／
令和7年度「酪農特別授業」を
岡山・熊本の2拠点で開催
～現役酪農家が伝える「酪農の魅力」と「命の循環」～
（酪農部）ほか

令和8年各地域酪農青年女性会議
酪農発表大会 開催のご案内

全酪新報ダイジェスト版

人事異動

第53回 全国酪農青年女性
酪農発表大会開催のお知らせ

作品募集のお知らせ

全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>

COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会



▲ 熊谷望さん(右)と本会川崎職員(左)

この度ご紹介するのは、北海道東部の網走市、オホーツク海と能取湖に挟まれた地形に位置する能取湖畔酪農生産組合の熊谷望さんです。能取湖は北海道の中で6番目に大きな湖で、完全な海水の湖としてホタテ等が漁獲されるほか、秋になるとサンゴ草（アッケシ草）が色づき、湖畔一帯が赤く染まる美しい景色が見られます。所属するオホーツク網走農業協同組合（乾雅文代表理事組合長）は5農協の合併により誕生した広域農協で、小麦や馬鈴薯等の畑作を中心に酪農畜産を含め多彩な作物を生産しており、令和6年度末時点の生乳出荷戸数は37戸、出荷乳量は40,342tとなっています。

したが、望さんが小学生の時に2戸での営農となったのを機に酪農に一本化し、つなぎ牛舎から現在のフリーストール牛舎を新築、牛も100頭の規模となりました。現在は搾乳牛が130頭前後、育成も含めた総頭数が270頭となっており、ご両親、望さん、協業先であるご親戚、昨年就農された弟さんと5名での体制となっています。

Uターン就農でみえた実家の酪農

高校時代に野球をやっていたので、スポーツに携わる職に就きたいと思い埼玉県の専門学校に進みました。卒業後も東京近郊で理学療法士として病院に勤務したり、まったく別の職種なども経験しました。最初、都心に出たのは地元を離れたい気持ちもありましたが、離れてみると地元の良さが分かるというものです。帰省する度に地元の景色が昔とは変わって写り懐かしくなりました。両親の引退がみえてきて、自分が継がないことで生まれ育った牧場がなくなってしまうとUターンを決意し、2019年の10月に就農しました。

就農後は主に父に作業やその背景を教えてもらいながら、農協主催の担い手研修、地域の酪農家の集まりや乳検組合などたくさんの方の勉強会に参加させてもらいました。作業だけでなく



▲ 夏の草地からは、美しいオホーツク海の景色が臨めるそう

過去の決算書を振り返り、厳しかった時期から牧場を立て直してきた父の経営を学び、両親が守ってきたこの牧場を引き継ぐことの責任をあらためて感じました。就農直後は専門用語も分からず、また牧草の繁忙期など体力的に厳しいこともありましたが、積極的に外に出て勉強をすること、実家の経営を客観的にみることができたと思います。例えば、搾乳牛舎に乳房炎予防として使用している砂は、多くの牧場では麦稈ですが、交換の頻度が低く牛体の汚れ、脚

今回は、北海道網走市 能取湖畔酪農生産組合の後継者 熊谷望さんにお話を伺いました。

若手後継者の

Vol.79

本音



▲ 搾乳牛舎、砂が敷かれたベッドにより牛体はきれいに保たれていた

〔経営概況〕

所 属 オホーツク網走農業協同組合(乾雅文代表理事組合長)

家族構成 ご両親、望さん、弟さん

飼養頭数 総頭数270頭 搾乳牛130頭

草 地 採草地70ha、デントコーン30ha

離れて気付いた地元の魅力、酪農を通じて地域を盛り上げたい

のトラブルも少ないことから今後も継続していきたいです。一方で繁殖管理については、現在はカレンダーと目視により父と2人で確認していますが、繁忙期や発情兆候の無い牛の見落としがロスにつながることから、今後は機器の導入も検討していきたいと考えています。

ゲノムによる牛群改良→頭数の適正化へ

その中で、現在力を入れたいと考えていることが牛群の改良です。就農を決めた理由のひとつに、両親の引退が近づいてきたことがありますが、将来的には従業員を確保していきたいです。経営者となった後も交流や学びの時間をとれるよう搾乳ロボットの導入を計画しており、それに向けて1年ほど前に育成牛全頭についてゲノム検査を実施しました。牛群の傾向を知る

ことができたので、今後は総合指数の底上げをしながら、搾乳スピードや乳器、気性などロボット牛舎を見据えた牛群改良を行っていききたいと考えています。また、これまでホルスタインのみで育成牛を多く抱えてきましたが、ゲノムを指標として後継牛の選択が可能となり、現在はおおよそ6割がF1となっています。父には「F1ばかりじゃない?」と言われていますが、哺育・育成頭数が減り、休みなく働いていた両親の代に比べて各自が週1回は休日を確認できるようになりゆとりにつながっています。家族が無理なく働けるように、今後も適正な育成頭数を維持しながら、ロボット導入に向けて良い牛を揃えていきたいです。

たくさん学び、自分で選択する

遺伝子レベルで良い牛群を揃えると同時に、飼養管理にも継続的に力を入れていきたいと考えています。両親の代は人数も少なく手が回っていない部分もあったようですが、今は弟も就農し人数が増えたので、水槽のこまめな掃除など日々の細かい作業についても少しずつ改善を進めています。現在課題としている自給粗飼料の向上については様々な方法が考えられますが、視察に伺った他地域の牧場にて、草地更新ではなく徹底した土壌改良と適期の刈取りで安定した収量と質の高い牧草を収穫できることを教えていただき、うまく取り入れていきたいと考えています。教科書

的には、5年に1度の草地更新が正解ですが、手間もお金もかかります。草地を壊さずに土壌を豊かにする、コントラで競合しない牧草で刈り遅れを防ぐ、などコストを抑えて良い草をとれるよう、一般的な手法に倣うだけではなく、この地域や自分の牧場に合ったやり方を見つけていきたいです。同時に、このような情報や技術を得るためにも、交流や視察と言った学びの時間は本当に大切だと感じており、これからも継続していきたいと思っています。

若い世代で酪農・地域を盛り上げたい

西網走地域は畑作が大部分を占めており、酪農家は10軒未満となっています。草地の拡大が難しいだけでなく、コントラについても作業員の

不足や機械の老朽化など不安要素があります。酪農家がそれぞれ経営することは限界に近く、TMRセンターや預託施設など助け合える横のつながりが必要と感じています。現在は農協青年部畜産委員会の副委員長として地域の声を聴く立場ですが、なかなか意見が出てこないのが現状です。酪農情勢が厳しく、良くも悪くも個人個人になりつ



▲ 育成・哺育舎には敷料を利用、近隣畑作農家と堆肥交換により入手しており、搾乳牛舎に使用しない分ふんだんに使える。

つありますが、酪農家が少ない今だからこそ仲間と将来を考え、自分たちの世代でまとまっていきたいと考えています。農政活動にも参加していますが、現在は増頭増産に対しかなりシビアになっているのを感じています。今後また需給に応じた生産を求められることに對して酪農家としての反感がありますが、ビジネスとして経営の視点を持ち、個体販売や乳代の底上げ、付加価値による利益率の向上など搾乳だけに頼らない経営を目指して、仲間と一緒に酪農・地域を盛り上げていきたいです。

同牧場のある地域は乳脂率が高く平均4・3%程度、能取湖畔酪農生産組合においては冬場になるとなんと4・5%も珍しくないそ

うです。特別に粗飼料主体の経営ではないことから、湖と海に挟まれたこの地域の土壌によるもののだとしたら素晴らしい付加価値となります。このような地域の特色も活かして、酪農先進地域ではないからこそ、もっと統一感をもってブランド化していきたいと熱く語られました。

実際に赴くと、前面は能取湖、後方はオホーツク海という類を見ない立地で、収穫作業の時に見られる景色は素晴らしいのだとか。就農前の数か月山小屋でアルバイトをしていたほど山好きだという望さんは嬉しそうにお話され、筆者もぜひ夏にも訪れてみたくなりました。この度は大変お忙しいところ、快く取材にご協力いただき誠にありがとうございます。能取湖酪農生産組合の皆様のご健康と、新しい年も素晴らしい1年になりますことを願っております。

全国の若手後継者の皆さんへの一言！



地域や規模は違っても同じ酪農家、それぞれ頑張っています。ぜひこれからも団結して声をあげていきましょう。そして私たちが業界と地域を盛り上げていきましょう!!

小規模な組織における 監査実施時の留意点について

はじめに

内部（自主）監査は、組織内の業務やルールの運用状況を点検し、問題点を早期に把握することで、組織全体の改善に繋げていくための重要な取り組みです。

一方で、特に小規模な組織においては、人員や時間に限りがあるため、大規模な組織と同様の方法を取り入れても、形式的な監査に終わってしまったり、かえって現場の負担を増やしてしまったりするおそれがあります。

そこで、今回の監査室だよりでは、これから監査を始めようとお考えの会員様を想定して、監査実施時の流れと注意すべきポイントを整理いたします。

監査実施時の流れと注意すべきポイント

監査実施前

(1) チェックリストの作成と活用

実際に監査を行う前に、チェックリストの作成に取り組みます。チェックリストとは、日常業務や手続き、規程の順守状況などを項目として整理した一覧表であり、監査時に何を確認すべきかを明確にするための指標となります。

作成にあたっては、管理部やそれに類する部署が中心となりつつ、各部署の定型業務の内容を反映させるため、各部署の意見を取り入れながら進めます。

また、監査の効率性を考慮し、組織内で共通の内容とすることが望ましいです。

なお、監査実施の頻度については、年1回や隔年など、リスクの大きさや重要性を加味し、各組織の実情に応じて検討してください。監査自体は実施しない場合であっても、チェックリストによる自己判定は毎年1回部署ごとに行うといったルールを決めておくと、業務を自己点検する習慣が つきます。

また、チェックリストは一度作成して終わりではなく、監査結果や業務内容の変化を踏まえ、年に1回は見直しを行う機会を設けることが重要です。これにより、形式的な確認に陥ることを防ぎ、実態に即した監査を継続することが可能となります。

作成したチェックリストを用いて、各監査先の部署は、自身の業務が自組織の規程や法令に沿って行われているかを確認し、○×等で自己判定を行います。この判定は、後の実査を円滑に進める準備にもなります。

参考までに、弊会で使用しているチェックリストのサンプルを示します。

項目	留意点	確認資料	部署名 評価	部署名 評価
現預金	毎営業日、現金有高表を作成し、残高との一致を確認しているか。	現金有高表	○ 管理部	○ 総務部 該当なし
資産	償却資産の管理台帳と現物との照合は定期的に実施しているか。	管理台帳 現物確認	○ 管理部	× 総務部
契約書	契約の締結に当たり、必要な りん議決裁を受けているか。	契約書 りん議書	○ 管理部	○ 総務部
公印	押印台帳に内容を記入後、管理者に確認してもらった上で 押印しているか。	押印台帳	× 管理部	○ 総務部
労務	有給休暇は年5日確実に取得 させているか。	勤怠表	○ 管理部	○ 総務部

監査実施中

(2) 判定結果の確認と実査

監査の実施にあたっては、原則として他部署の職員による客観的な視点から確認を行います。人数の制約がある場合は、同じ部署内であっても、当該業務を直接担当していない職員が確認を行うなど、可能な範囲で客観性を確保するようにします。

そのうえで、(1)で行われた自己判定の結果を踏まえ、監査実施者が、実際の業務内容や運用状況を確認します。

具体的には、現金類や償却資産等の現物確認、業務マニュアルや証憑書類の記録確認、担当者へのヒアリングを通じて、チェックリストに記載された自己判定が実際の運用状況と一致しているか、また、基準通りに業務処理が適切に行われているかを確認します。

ただし、チェックリストの全ての項目の確認を限られた時間内に行うのは現実的ではないため、過去にトラブルのあった業務、金銭を扱う業務など、よりリスクの高い業務から優先的に確認します。

また、自己判定で×となっている項目については、単なる確認不足なのか、どういった理由で適切な手続きが実施されていないのか、あるいは、運用自体に課題があるのか、といった事実関係を正しく把握したうえで、次の改善提案に繋がります。

(3) 指摘事項と改善点の整理

(2)の結果を踏まえ、不適切な管理・手続きが認められた事項については、監査実施日の当日中に監査先に報告を行います。

この際に重要なことは、単に「できていなかった点」を挙げるのではなく、なぜそのような状態に至ったのか、それが看過されることでどのようなリスクが起こりうるのか、今後の望ましい対応等を監査先に認識してもらうことです。

また、指摘事項については、書類の不備や確認漏れなど比較的軽微なものと、業務の進め方や管理方法そのものに課題のある、より重要性の高いものとを区分して整理します。

これにより、次の結果報告書作成時に、指摘事項の重要度や対応の方向性を認識してもらいやすくなることができ、翌年度以降の監査においても、どの事項から優先的に確認を行うべきか判断するための目安とすることができます。

監査実施後

(4) 結果報告書の作成

(3)で整理した指摘事項や改善点を結果報告書として取りまとめます。記載にあたっては、上述した通り、確認した指摘事項に加え、それぞれの重要度や想定されるリスク、求められる対応内容を簡潔に記します。

また、重要性の高い指摘事項については、具体的な対応や期限を明確にし、改善状況について報告を求めることで、対応の実効性を確保します。

なお、結果報告書は、監査の実施状況や確認結果を関係者に共有し記録として残すことで、今後の業務改善や次回以降の監査において同様の指摘を繰り返さないための注意喚起としての資料とすることができます。

おわりに

内部（自主）監査は、一度実施したら終わりというのではなく、組織の規模や体制に応じて無理のない方法で継続していくことが重要です。小規模な組織においては、一度に完璧を目指すのではなく、できる範囲から着実に取り組む必要があります。

また、監査を単なる点検作業として捉えるのではなく、日常業務を見直す機会として適切に実施することで、組織全体の業務改善やリスク低減に繋がっていくことが重要です。

令和
7年度

全酪連・全国酪農協会 会員職員研修会

後編

1月号に引き続き、令和7年11月12日(水)に開催いたしました、全酪連・全国酪農協会 会員職員研修会について掲載いたします。

本号では、山崎農業経済研究所 所長 山崎政行氏に講演いただきました「畜産経営における経営継承の推進」です。



畜産経営における

経営継承の推進

山崎農業経済研究所 所長 山崎政行氏

親子間継承

酪農家が減少傾向にある中、担い手の親子間継承の留意事項や、第三者継承の考え方、手法等について、現場視点で対応できることを目指し、展望ある経営継承により、地域の畜産振興に繋がっていただくことを目指してお話しいたします。経営継承は地域の課題でもあるという認識を持つことが必要です。

家族経営が多い畜産・酪農は、今後も親子間継承が中心だと思えます。親子間で世代交代する時期は、なるべく親世代が若いうちに行うべきと考えます。支援機関の方も個別経営内の問題に対して発言するのは少し引いた方がよいと思いが

ちかもしれませんが、機会あるごとに、経営交代を早めるような取り組みをしてみたいかがでしうか。ただし、継承後の親世代の居場所を残すことをセットとして考えて、若き後継者に任せることが重要と考えます。後継者が若いうちに経営者となり、失敗し、本人が原因を考え改善方法を見つけていく。そのようなプロセスを後継者に持たせて欲しいと思います。

しかし、両者での経営理念の違い、意思疎通の少なさ、親は権限をなかなか渡さず後継者をいつまでも労働者としか見ない、逆に、後継者が経営者になるという意思が希薄であったりする状況が見受けられま

す。どのように解決したら良いでしょうか。私は、後継者の横のつながりに注目しています。

親子間継承は、親子間のコミュニケーションだけに目を奪われがちですが、後継者同士、先輩たちに相談して悩みを解決していることが多いのです。地域との繋がりが保てるかどうか、経営継承の非常に大きな対策だという認識を持っていたきたいです。

また継承には「家」としての課題もあります。事業を引き継ぐ子どもと、そうでない兄弟・親族への相続財産をどうするか、それらも考えながら、「家」と「事業」を分けながら進めていくことも大切です。

第三者継承

親子間継承に比べ、第三者継承は、急にやろうと思ってもなかなかできません。

継承者が硬直的であったり、資産譲渡価格の折り合いや、考え方・相性の問題など、そう簡単ではありません。時間をかけて準備、対応することが重要で、移譲者と継承者、この双方のマッチングの仕組みには事前観察を含め1～2年の時間をかけて作っていきます。この仕組みとは、移譲者と継承者の間に制約をつける、両者が譲り合い敬意を持って進めていく流れを、関係機関や支援機関に持っていたきたいと思っています。

移譲者が「俺が譲ってやるんだ」という気持ちではやはりどこで行き違いが起きます。移譲者は、若くやる気のある方の能力に注目していただきたい。牛を愛している、この地域で酪農をやるうという強い気持ち、あるいはパソコンを使う能力など、敬意を持って移譲する、そのような仕組みが、移譲者と継承者のお互いに制約をかけながら共通の目標に向かうことを助けます。そのためには、各地の酪農組合だけではなく、多くの関係

機関を巻き込み作る仕組み、皆が同じ目標で経営継承を行うための制約、そういう目標に向かって進めていくということを周囲の関係機関がチームを作り考えていただきたいと思います。

新規就農者には「農地の確保」「資金の確保」「営農技術の取得」が大きな壁として立ちほだかります。この問題を解決してくれるのが第三者継承です。牛も技術も伝授をしつつ、継承者が経営者になつていく。そのようなリレー方式を薦めています。

第三者継承の成功事例として、譲る人は早くから考えた、継承を前提に有形資産などを大事に管理し続けた、継承者に経験があり技術力が高かった、移譲者と継承者の考え方が近く同じような価値観を持っていた、事前に法人化し何年か後に継承者が代表者に交代した、などいくつかあります。一方で、移譲者と継承者の2人だけではうまくいかない場面があります。行政や普及所、農協などの関係機関は、連携して地域の課題として伴走型支援をしていたいただきたいです。実際の事例を見ても、当事者同士だけの継承は不可能です。地元の関係機関や地域の仲間がチームを作り、役割分担をしながら

継承を進め、継承した後のフォローもチームで行っていただきたいと考えます。チームで情報を蓄積し、皆さん方の地域にあったやり方を考え、継承者を支援していく体制を作っていたいただきたいです。

親子間継承ができない経営体には第三者継承に乗せられるような準備を、地元地域に作っていただきたいものです。

経営継承の進め方

家族間継承、第三者継承にかかわらず、最初に家族会議において意識を共有していただきたい。これは相続にも関係ありますので、実際に酪農を継ぐ子どもだけではなく子ども全員です。

家族会議にて「現預金・積立金・負債」と「土地・建物等」を『事業』と『家』に分けることが重要です。そして、継承する経営資源を無形資産と有形資産に分け、何をどのように継承するか、考えましょう。

無形資産の継承が一番大事です。ここがきちんとできないと酪農経営が維持できなくなる可能性があります。

農地、土地は、「家の財産資産」と「事業用資産」に分けること。「家の資産」は相続財産でもありますが、それを

賃貸することにより入ってくる地代は、事業を継がない他の兄弟や家族の収入になることもあります。

建物、機械。これらは減価償却資産であり賃貸ができます。

一方、肥育牛や飼料などの棚卸資産は、繁殖メス牛などと違い棚卸資産であり、賃貸借ができません。継承時に売買することで所有権が変わります。つまり、移譲者に所得が計上される可能性があります。

経営のバトンタッチの瞬間だけではなく、その中身を具体的に考え、それぞれ時間をかけての継承方法を具体的に考えていただきたいところです。

親子間継承であれば、生前贈与を進めていく方法もあります。これは相続時精算課税制度が活用できるということです。この生前贈与のための制度は活用していただきたいと思います。

経営継承を進めるポイント

経営継承は経営上の重要課題であり、早めに準備を始め、家族会議からスタートし、支援機関が後押しをしていただきたいと思います。今後親子間継承が中心となると考えますが、第三者継承も選択の一つとして考えて

何をどのように継承するか(1)

1

家族会議の後

継承する資産の種類の違いをを踏まえて継承方法を考える

- 家族会議で意識を共有
- 継承するときに 『事業』と『家』を明確に分けていますか
⇒「現預金・積立金・負債」と「土地・建物等」を『事業』と『家』に分けます
- 農業経営の継承では、何をどのように引き継ぐか
⇒継承する経営資源を無形資産と有形資産に分けます 有形資産も種類があります
 - 無形資産の継承
 - 農地や施設用地の継承
 - 建物・機械の継承
 - 肥育牛などの棚卸資産（在庫）の継承

いただきました。経営継承を進める上では支援機関の関与は不可欠です。継承者と移譲者だけでなく、ぶつかって破談になることも少なくありませんのでチームで関与していただきました。

い。移譲者と継承者は相互に観察し、相互に尊重することが大事です。お互いに敬意を持ち尊重する、そのような気持ちが必要です。経営継承は移譲者と後継者を結び

つけて終わりではなく、継承後の経営体が発展し、地域の酪農が発展するための地域農業の課題であるという認識を持ち、チームで進めることが必要です。また、継承後の経営は不安定

なことが多いので、関係機関が継承時のみならず、継承後も伴走型で支援する、これが重要だということで、是非ともこの伴走型支援をお願いしたいです。

親子間継承に関する生前贈与の活用

2

関心の高い税務一生前贈与の検討

※令和6年から適用

区 分	相続時精算課税制度	(参考)暦年課税による贈与税
適 用	生前贈与時に贈与税を支払い、相続時に相続税を精算。	暦年（1月～12月）ごとに贈与された合計額に税を払う。
贈与者の年齢	60歳以上（父母、祖父母）	制限なし
後継者の年齢	20歳以上（子または孫）	制限なし
控除額	特別控除 2,500万円 （基礎控除後※利用可）	基礎控除（毎年）110万円
税 率	一律 20%	10%～55%の累進課税
相続加算財産	制度適用後のもの	相続開始前の3年以内のもの
相続時の精算	差額分は還付される	差額分は還付されない

就農を支援する関係機関の動き

3

就農を支援する手法例

区 分	内 容
個別対応	<ul style="list-style-type: none"> □ 段階的、継続的、情報提供 例) ・地域の多数⇒志向別グループ⇒個別と段階的に第三者継承の説明 ・就農後の経営発展を見据えた、情報提供 □ 志向別個別相談対応 例) ・親元就農、第三者継承に関する個別相談 ・移譲希望者の掘り起こし ・就農希望者に対するマッチング支援
態勢整備・組織的対応 [時間軸を使って]	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 就農後に経営を展開する地域の支援機関を主体とする支援の意識共有 ➢ 支援機関のレベル向上のための人材育成、専門家活用 ➢ 就農者、移譲者、支援機関が一体となった意識統一と計画の共有 ⇒「計画シート」等ツールを共有して活用 ➢ 認定研修機関や全国団体等、既存組織とのネットワーク構築 ➢ 就農、移譲の候補者への情報提供活性化、恒常化の検討

酪農業に対する 理解醸成活動報告③



酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。今年度は、国の補助事業である国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業(国産牛乳乳製品の需要拡大等事業)を活用して実施いたしました。

全国各地から報告が届いていますので先月号に続きその活動をご紹介します。ご協力いただいている関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

●小学生の牧場見学

日時：12月8日(月)

場所：有限会社北の大地

参加者：北海道酪農青年女性会議
東宗谷農協青年部



●小学校での食育活動

日時：12月16日(火)

場所：中頓別小学校

参加者：北海道酪農青年女性会議
東宗谷農協青年部



●スーパーでの酪農業に関する 理解醸成活動

日時：12月22日(月)

場所：Aコープ 浜頓別 ラ・ラック店

参加者：北海道酪農青年女性会議
東宗谷農協青年部



北海道

●第24回花巻市歯科保健大会

日時：11月8日(土)

場所：花巻市文化会館

参加者：岩手県内酪農家、岩手中央酪農業協同組合 他

●子ども食堂「にこここ食堂ざしきわらしの家」

日時：11月9日(日)

場所：生きいき交流センター (二戸市)

参加者：岩手県内酪農家、岩手中央酪農業協同組合 他

岩手県

山形県

●白鷹町産業フェア

来場者：3,200人

日時：11月2日(日)

場所：白鷹町役場前特設会場

参加者：山形県酪農青年女性会議、
(株)ヤマラクフーズ



●理解醸成活動

来場者：500人

日時：11月5日(火)

場所：秋保ヴィレッジ アグリエの森 (仙台市)

参加者：宮城県酪農農業協同組合
青年婦人連絡協議会



●牛乳普及協会・青年部・婦人部合同 理解醸成活動

来場者：1,000人

日時：11月7日(金)

場所：アエル2階アトリウム (仙台市青葉区)

参加者：宮城県牛乳普及協会、
みやぎの酪農農業協同組合青年部・婦人部



宮城県

●酪王協同乳業まつり

来場者：15,000人 日時：10月4日(土)～5日(日)

場所：開成山公園 (郡山市)

参加者：福島県内酪農家、福島県酪農業協同組合、
酪王協同乳業株式会社 他



福島県

●武豊町産業まつり

来場者：17,000人

日時：11月8日(土)

場所：武豊町ゆめたろうプラザ

参加者：愛知県酪農家、愛知県酪農青年女性部



●酪農業に関する理解醸成活動（特別授業）

日時：12月23日(火)

場所：津駅東口前（津市）

参加者：三重県内酪農家、三重県酪農農業協同組合、三重県農林水産部



●えひめまつやま産業まつり2025

日時：11月16日(日)

場所：城山公園（松山市）

参加者：愛媛県経営者協議会、
愛媛県酪農業協同組合連合会

●北広島町産業フェア

日時：11月2日(日)

場所：北広島町役場本庁南側駐車場

参加者：北広島町酪農団体連絡協議会、広島県酪農業協同組合、広島協同乳業㈱



●ひろしまフードフェスティバル2025

来場者：25日 90,000人、26日 130,000人

日時：10月25日(土)～26日(日)

場所：広島市中区（広島城周辺）

参加者：広島県酪農業協同組合



●そばまつりとよひら2025

来場者：18,000人

日時：11月15日(土)～16日(日)

場所：道の駅豊平どんぐり村

参加者：北広島町酪農団体連絡協議会、広島県酪農業協同組合、
広島協同乳業㈱

●牧場まつり

来場者：3,000名以上

日時：11月9日(日)

場所：ポートレース大村第5駐車場（大村市）

参加者：長崎県内酪農家、長崎県酪農業協同組合連合会、
ながさき県酪農業協同組合

●諫早農高 農業文化祭

来場者：2,500名以上

日時：11月15日(土)

場所：長崎県立諫早農業高等学校（諫早市立石町）

参加者：長崎県内酪農家、長崎県酪農業協同組合連合会、
ながさき県酪農業協同組合

●雲仙市産業まつり～特産まんぞく市～

来場者：25,000人

日時：12月7日(日)

場所：JA全農ながさき県南家畜市場
（雲仙市吾妻町）参加者：長崎県内酪農家、長崎県酪農業協同組合
連合会、ながさき県酪農業協同組合

●パラディソガーデン

来場者：300人
 日時：10月4日(土)
 場所：JRおおいたシティ（8階）
 アミュプラザ屋上広場
 参加者：大分県内酪農家、大分短期大学
 学生、大分県畜産協会、大分県
 酪農業協同組合



●第31回 九重ふるさとまつり

来場者：1,000人
 日時：10月18日(土)～19日(日)
 場所：九重保健福祉センター前駐車場
 参加者：大分県内酪農家、
 大分県酪農業協同組合 他



●大分県農林水産祭

おおいたみのリフェスタ2025

来場者：5,000人
 日時：10月18日(土)～19日(日)
 場所：別府公園
 参加者：大分県内酪農家、
 大分県酪農青年女性会議
 大分県酪農業協同組合 他



●モーモースクール

日時：10月22日(木)
 場所：大在東小学校
 参加者：大分県内酪農家、
 大分県酪農業協同組合 他



●宮崎県農業協同組合

はまゆう地区本部ふれあい展示会

来場者：4,000人
 日時：11月1日(土)
 場所：宮崎県農業協同組合
 はまゆう地区本部新選果場
 参加者：串間酪農青年部、
 宮崎県農業協同組合
 はまゆう地区本部 他



●宮崎県農業協同組合

はまゆう串間支店ふれあい展示会

来場者：2,000人
 日時：10月11日(土)
 場所：宮崎県農業協同組合
 はまゆう串間支店
 参加者：串間酪農青年部、
 宮崎県農業協同組合
 はまゆう串間支店 他



●ふれあいフェスタ

来場者：1,000人
 日時：11月1日(土)～2日(日)
 場所：西諸家畜市場
 参加者：宮崎県内酪農家、
 JAみやざきこばやし地区本部

●令和7年度田の神さあひの里産業文化祭

来場者：2,000人
 日時：11月22日(土)～23日(日)
 場所：えびの市文化センター東側駐車場
 参加者：JAみやざきえびの市地区本部
 酪農青年女性部



●ATOM創業祭

来場者：1,000人
 日時：11月15日(土)
 場所：協同商事直売所ATOM
 参加者：都城地区酪農青壮年部連絡協議会、JAみやざき都城女性部酪農部会

●小林秋祭り

来場者：1,000人
 日時：11月23日(日)
 場所：小林駅前広場
 参加者：宮崎県内酪農家、
 JAみやざきこばやし地区本部



●宮崎県農業協同組合 大束地区本部農業祭

来場者：3,000人
 日時：11月30日(日)
 場所：宮崎県農業協同組合大束地区本部
 参加者：串間酪農青年部、
 串間酪農組合 他



●MIYAZAKI Delicious Market

来場者：15,000人
 日時：12月13日(土)～14日(日)
 場所：イオンモール宮崎
 参加者：宮崎県酪農青年女性
 連絡協議会

見えて来紀

No. 392

農事組合法人 日登牧場

島根県雲南市

牛にやさしい・人にやさしい・自然にやさしい酪農



島根県雲南市



▲ 佐藤貞之さん

今回ご紹介するのは、島根県

雲南市の（農）日登牧場です。（農）

日登牧場は、木次乳業有限会社の自社牧場として平成2年に開設され、木次乳業（有）と深い関係にあります。

現在の（農）日登牧場の代表であり、木次乳業（有）の取締役相談役でもいらつしやいます佐藤貞之さんと、牧場長の成瀬悟さんにお話を伺いました。

地域の紹介

（農）日登牧場がある雲南市は、島根県の東部に位置しています。山陰と山陽を結ぶ主要街道上に位置していることから、陰陽を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。市の南側は中国山地、北側は出雲平野へと続いていることから標高差が大きく、豊かな森林や河川、滝など中山間地域ならではの豊かな自然環境に囲まれています。

雲南市にはヤマタノオロチ伝説で

知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説、神楽などが伝承されており、加茂岩倉遺跡や神原神社古墳をはじめとした多くの遺跡や古墳が発掘されています。また古くから、斐伊川の支流周辺の低地では農耕が営まれ、山間地では炭焼きやたたら製鉄が盛んに行われてきました。

乳業会社の設立と安心・安全へのこだわり

昭和28年、佐藤貞之さんのお父様である佐藤忠吉さんが友人と3人で乳牛の飼養をはじめました。当時小学生だった貞之さんは、通学前に乳缶を2本〜3本ほど自転車に積んで地元の牛乳工場まで運び、それから牛乳を近所へ配達して家業を手伝っていたそうです。昭和30年代に入って次第に町内から生乳を出荷する農家が増えていき、昭



▲ 木次パスチャライズ牛乳

和37年、忠吉さんをはじめ地元酪農家5人の有志によって木次乳業(有)が設立されました。

当時の日本は高度経済成長期。農業にも近代化の波が押し寄せ、農機具を購入し農薬を使用する農業が最先端でした。農

薬や化学肥料は、生産性の向上などの恩恵をもたらした一方で木次町の酪農に大きな問題を引き起こしました。あぜ草や自給飼料を食べた牛が繁殖障害や起立不能などの不調をきたし、さらに町内の主婦の母乳から残留性の農薬が検出される事態が発生したのです。この一件から忠吉さん達は「健康な乳牛でなければ良い乳は出ない」と考え、有機農業の道

▲ Pan&AWARD2020 パンに合うアイス大賞受賞トロフィー
アイスやチーズ、ヨーグルトなども製造しています

を模索し始めました。そして酪農を核とした有機農業へのこだわりは今日まで続いています。

自然のままの牛乳を

「できるだけ自然の状態に近い牛乳を提供したい」との理念から、低温殺菌によって風味をできるだけ損なわないパスチャライズ牛乳の開発に3年かけて取り組み、昭和53年に日本初のパスチャライズ牛乳『木次パスチャライズ牛乳』を販売しました。現在では地元の学校給食で提供されるなど、地域に根付いた商品となっています。

良い生乳を求めて日登牧場を

パスチャライズ牛乳に続いてナチュラルチーズなど乳製品も生産するようになり「良い材料(生乳)を

生産しなければ良い食品(チーズ)は作れない」と考えた忠吉さんは、平成2年、親戚が手放した土地にブラウンスイスを放牧し、木次乳業(有)の自社牧場として山地酪農を始めました。それが(農)日登牧場の始まりです。

中山間地に合った酪農を模索

(農)日登牧場では搾乳牛55頭、育成牛35頭(うち未經産牛25頭)のブラウンスイスを放牧で飼養しています。ブラウンスイスを導入した理由は、牧場の立地にあります。冒頭でもご紹介したように、雲南市は標高差が大きく自然豊かな中山間地域。(農)日登牧場の立地も山あいの傾斜地でした。過去にホルスタインの育成牛を山の草地で試験的に放牧したものの失敗した経験から「傾斜の多い中山間地で放牧するなら山地にあった牛でないとダメだ」と考えた忠吉さんが世界中の牛を見て回るなかで、スイスの山岳酪農をヒントに辿り着いたのがブラウンスイスでした。しかし当時、乳牛として認められていたのはホルスタイン種とジャージー種のみでした。そのため農林水産省へ掛け合うこと3年、日本で初

めてブラウンスイス種を乳牛として認めてもらい試験導入に至ったそうです。最初に導入した16頭のブラウンスイスは、アメリカから成田空港まで空輸したとこのことで驚きです。



▲ 急斜面でも悠々と草を食むブラウンスイス

牛の健康のために

山地酪農で放牧しながら牛の健康を維持するうえで、粗飼料の質は特に重要だと成瀬さんは話します。普段は自然に生えている野草を自由に食べているため、栄養面の管理にはどうしても限界があります。そのため現在は野草のほかに、稲WSC、

コーンサイレージ、自給の牧草サイレージ、US産チモシーをミックスして1日2回給与しています。

稲WCSとコーンサイレージは地元島根県の農家に委託して生産してもらっています。「特に稲WCSは適期に刈取りされていないと品質のブレがとても大きく、牛の健康状態に大きく響きます。健康な牛でないと良い乳が搾れませんから、質の良い飼料を生産してもらうために生産農家や農協とのコミュニケーションは欠かせません」

付加価値をつけた生乳を生産

ブラウンスイスの乳量は基本的にホルスタイン種の半分程度であり、



▲ こだわりの粗飼料は嗜好性も抜群

また粗飼料については放牧地の野草と自給飼料の牧草のほか、地元で生産された稲WCSとコーンサイレージも給与しています。地元で生産された粗飼料を利用することで、地域とのつながりも大切になっています。近頃はどんどん飼料コストが上がっていますが、消費者にとつ

(農) 日登牧場の1頭当たり平均乳量はおおよそ14kg〜15kg/日です。ブラウンスイスで牧場経営するうえで意識されていることを成瀬さんに伺いました。

「乳量を追い求めるのではなく牛乳に付加価値を付けてうまく差別化することで、多少高値でも消費者に選んでもらえる生乳生産を意識しています。消費者に選んでもらう商品をつくるには、商品を買う側の意識を持つことが重要だと考えています。うちでは昔から、配合飼料も含めて非遺伝子組換え原料を使用した飼料(NON-GMO対応飼料)を給与しており、消費者が安心して飲める牛乳の生産を心掛けています。



▲ 牧場長の成瀬悟さん

て《非遺伝子組換え原料の餌で育った牛の安心・安全な牛乳》《地元島根県で作られた粗飼料をたくさん食べた牛の地元愛あふれる牛乳》を提供するという姿勢は今後も変えるつもりはありません」と力強く語って下さいました。

終わりに

成瀬さんに、今後の展望についてお聞きしたところ「人手の確保が今後さらに難しくなっていくと思うので、手間のかからない牛を揃えて搾乳性をあげていきたいです。また搾乳ロボットの導入も視野に入っていま

す。うまく使えば、搾乳ロボットほど放牧に合うものはないと思いますから」と笑顔で話して下さいました。

安心・安全で自然なおいしさの牛乳を。地域の特性を生かした酪農を。木次乳業(有)と日登牧場を立ち上げた佐藤忠吉さんの想いはしっかりと受け継がれ、(農) 日登牧場で現在も実践されていることが伺えました。

この度は、年明けで忙しいなか取材に快くご対応いただき、誠にありがとうございました。今後の益々のご発展を祈念いたします。



▲ のどかな山地酪農

酪農部
発令和7年度「酪農特別授業」を岡山・熊本の2拠点で開催
～現役酪農家が伝える「酪農の魅力」と「命の循環」～

全酪連酪農部では、学校給食がなくなり牛乳の摂取量が減少する高校生を対象に、牛乳・乳製品の栄養的価値の訴求と、現役酪農家が直接魅力を伝える「酪農特別授業」を開催いたしました。

本取組は、昨年度より農林水産省の「生乳需要基盤

確保事業」を活用して開始したものです。昨年度の東京都立農産高校での開催に続き、本年度はより広域での展開を目指し、全国農協乳業協会のネットワークや全国酪農青年女性会議の皆様の多大なるご協力のもと、岡山県と熊本県の2拠点での開催が実現しました。

●【岡山】「牛は大切なパートナー」酪農家の想いに触れる

11月26日：おかやま山陽高校（岡山県浅口市）

機械科の1～3年生約100名を対象に、西日本酪農青年女性会議の山下委員長・安富副委員長、および全酪連職員が講師を務めました。実際の搾乳や給餌風景を収めた映像を交えながら、酪農という仕事の醍醐味を伝授。生徒からは、「牛はペットでも家族でもな

く、パートナーだという言葉に感動した」「普段あまり飲む機会がなかったが、今日を境にもっと飲もうと思った」といった、意識の変化を感じさせる感想が寄せられました。



●【熊本】「らくのう牛乳」ができるまでの情熱を学ぶ

12月17日：熊本県立鹿本農業高校（熊本県山鹿市）

1・3年生約90名を対象に、全国酪農青年女性会議の中村委員長、九州酪農青年女性会議の内ヶ島委員が登壇し、らくのうマザーズ様の全面協力のもと、特別授業を行いました。畜産科のない同校では多くの生徒が畜産農家の出身ではありませんでしたが、地元の「ら

くのう牛乳」が家庭に届くまでのプロセスを真剣に受講。「動画で工程を見て、想像以上に大変な仕事だと分かった。大切に飲みたい」「酪農家さんの人生経験の話がためになった」など、地元を代表する酪農業という産業への深い理解に繋がる機会となりました。



●「チーム全酪連」として、未来へ繋ぐ活動を

今回の2拠点での授業を通じ、次代を担う若い世代へ酪農の魅力と牛乳の価値を直接届けることの重要性を再確認いたしました。

今後も全酪連酪農部は、単なる販売促進にとどま

らず、全国酪農青年女性会議をはじめとした関係組織等と連携し、酪農理解醸成と牛乳消費拡大に取り組んでまいります。

(M.A)

名古屋
支所発東海ブロック酪政連協議会
「令和7年度第2回全体研修会」開催

1月23日(金)全酪連名古屋支所大会議室（愛知県名古屋市）において「東海ブロック酪政連協議会 令和7年度第2回全体研修会」が開催されました。

今回は、農林水産省畜産局牛乳乳製品課の平田裕祐課長補佐を講師にお迎えし、「令和7年度補正・令和8年度当初予算について」と題し、研修会が行われました。

委員長の清水清人氏（日本酪農政治連盟岐阜支部、岐阜県酪農農業協同組合連合会 代表理事会長）の開会挨拶後、事業のポイントについて平田氏より説

明を受けました。その後、各県から状況説明や質問、要望等を挙げ、今後の管内酪農業界を盛り上げるための議論がなされました。

研修会後の懇親会でも今後の酪農課題についての意見が交わされ、とても充実した一日となりました。

全酪連名古屋支所は、東海ブロック酪政連協議会の益々の発展に寄与して参ります。また、引き続き東海ブロック酪政連協議会は、酪農家の経営安定・改善を求め活動して参ります。（S.M）



▲ 平田課長補佐（講師）



▲ 清水清人委員長



▲ 研修会風景

名古屋
支所発

中部酪農青年女性会議 主催「女性研修会」を開催！

11月28日(金)に名古屋四季劇場（愛知県名古屋市）において、中部酪農青年女性会議主催による女性研修会が開催されました。

愛知県内では有名なナナちゃん人形前に集合し、レストラン「伊太利食房 Zen Zero」でのオシャレなランチの後、名古屋四季劇場で開演されているミュー

ジカル“マンマ・ミーア!”を観劇しました。参加された皆さんには大変楽しんで頂きました。

今回より女性のみではなく、男性も参加できるようになり、5つの県から合計21名に参加いただき、酪友同士の交流を深める良い研修会となりました。（S.M）



▲ 集合写真(名古屋四季劇場前にて)



▲ 集合場所のナナちゃん人形



▲ 楽しいランチ

福岡
支所発

酪農生産事業推進研修会「研修会」を催す

11月26日(水)、事務機ビル貸会議室（福岡市）において福岡支所が事務局を務める、酪農生産事業推進研修会（会長：田北良 大分県酪協 酪農部次長）は、一般社団法人家畜改良事業団 熊本種雄牛センター場長 門脇賢治氏を講師に招いて研修会を催しました。

研修会には、当研究会役員を中心に九州各県より総勢16名が集まり、田北会長の開会挨拶の後、門脇センター長より「種雄牛選定、改良について」と題して講演、質疑応答を行いました。

生産コストの上昇により依然として厳しい状況が続い

ている酪農情勢ではありますが、F1・和牛スモール等の副産物での収入を少しでも増やすためにも当研究会では種雄牛の選定や優良な後継牛の確保について積極的に情報を取り入れて行きたいと考えています。（K.Y）



▲ 田北会長
（大分県酪 酪農部次長）



▲ 講師 門脇氏
（（一社）家畜改良事業団
熊本種雄牛センター場長）



令和8年 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会

開催のご案内

発表大会／開催日	開催場所
第51回北海道酪農青年女性会議酪農経営発表大会 3月25日(水)	〈釧路センチュリーキャッスルホテル〉 〒085-0837 北海道釧路市大川町2-5 TEL:0154-43-2111
第53回東北酪農青年女性会議酪農発表大会 3月25日(水)	〈穴原温泉吉川屋〉 〒960-0282 福島県福島市飯坂町湯野字新湯6 TEL:024-542-2226
第53回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会 3月16日(月)	〈ホテル 紅や〉 〒392-0027 長野県諏訪市湖岸通り2-7-21 TEL:0266-57-1111
第55回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会 4月6日(月)	〈セントコア山口〉 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉3丁目2-7 TEL:083-922-0811
第53回九州酪農青年女性酪農発表大会 3月11日(水)	〈ニューウェルシティ宮崎〉 〒880-0879 宮崎県宮崎市宮崎駅東1-2-8 TEL:0985-23-3311



令和8年度予算・畜産物価格

経営安定対策4億円増、飼料増産も確保
単価計12銭上げ 対象数量は最大350万トンへ

政府は12月26日、総額2兆2956億円とする令和8年度農林水産関係予算を閣議決定した。今年度より250億円、1.1%の増額。酪農関係では、「酪農経営安定対策」に3億9千万円増の448億100万円（所要額）、今年度より措置している「飼料生産基盤に立脚した酪農・肉用牛産地支援」に3億9800万円減の51億8300万円を計上した。このほか、改良や家畜伝染病、鳥獣被害等への対策に必要な予算を確保した。

当初予算の重点事項は、①食料安全保障の強化②農業の持続的な発展

③農村の振興④環境と調和のとれた食料システムの確立⑤多面的機能の発揮——の実現を目的とした施策のほか、林業、水産業、防災・減災関連を加えた8本が柱。飼料の生産利用拡大へ、予算では今年度に続き地域の生産者等が連携して行う計画的な飼料増産の取り組みを後押しする。

酪農関係予算ではこのほか、口蹄疫等の家畜伝染性疾病等の発生予防・まん延防止対策を図るために必要な「家畜衛生総合対策」に77億4300万円（2700万円増）を計上。また、「鳥獣被害防止対策とジビエ利用の推進」に

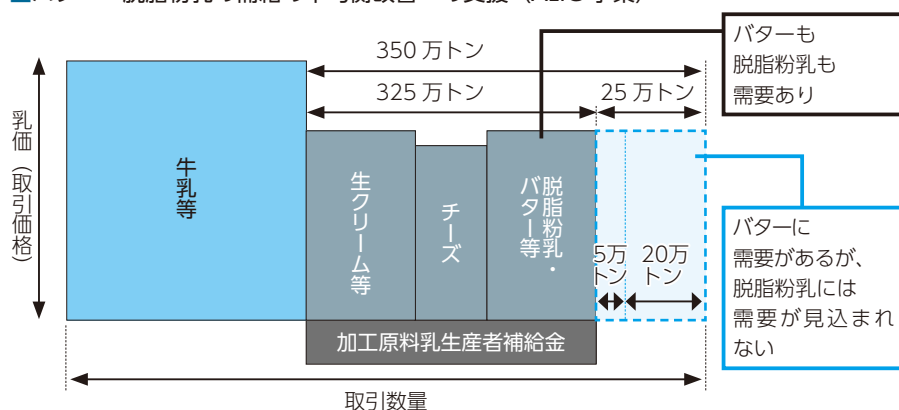


▲ 大臣折衝に向けて決意を述べる鈴木憲和農相

99億8200万円（2700万円減）などを盛り込んだ。

また、12月22日には、令和8年度の加工原料乳生産者補給金単価は、今年度より2銭引き上げの9円11銭、集送乳調整金単価は10銭引き上げの2円83銭、計11円94銭で決定し

■バター・脱脂粉乳の需給の不均衡改善への支援（ALIC 事業）



た。関連対策（ALIC事業）による集送乳経費の合理化支援も含めると、補給金・集送乳調整金単価は、合計で実質12円3銭となる。総交付対象数量（旧限度数量）は325万トンで据え置くが、今年度と同様、脱脂粉乳・バターの需給不均衡改善

に向け、325万トンを超えた場合、数量外の25万トン分を関連対策で支援(図)。その結果、今年

度の343万トンから7万トン増の実質350万トンまで対象数量を拡大する。(1月1日 新年号)

令和7年度補正

長命連産能力高い精液利用に奨励金 高機能性選別製造機器の導入支援も

令和7年度補正予算で措置した乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業(一部既報)では、長命連産性能力の高い精液や受精卵等を利用する取り組みへ前年度と同様に奨励金を交付するとともに、本補正では地域の人工授精所等における高機能性選別精液製造機器の導入等への支援をメニューに追加。また、長命連産性向上に資する研修会開催への支援として、

従来は事業実施主体の研修会を想定していたものの、地域の農協が行う研修会も対象となるよう拡充した。

事業のメニューは、①長命連産性の能力の高い乳用種雄牛の交配推進支援②乳用牛の飼養管理技術の向上に対する支援③性選別精液製造機器の導入等支援——の3つ。

このうち①では、長命連産性の能力の高い乳用種雄牛の精液等を利用

する取り組みへ奨励金を交付する。対象は今年度と同様、家畜血統登録機関で登録されているホルスタインの種雄牛から採取された精液で、家畜改良センター等が公表した「乳用牛種雄牛評価成績」等に掲載または公表した評価成績を有する種雄牛。NTPの順位や長命連産効果等から単価を決める。(12月20日号)

江崎グリコ(株)はこのほど、搾って3日以内の国産生乳にこだわったカップアイス「牧場しぼり」シリーズの購入を通じて酪農家を応援する「ミルク愛すキャンペーン」を実施。12月11日には都内の中央酪農会議の会議室でキャンペーンを通じて募った寄付金の贈呈式が行なわれ、江崎グリコの大高寛乳業事業部長より計150万5540円の目録が中酪の菊池淳志専務へ贈呈された。寄付金は酪農振興に活用される。

江崎グリコ

カップアイス「牧場しぼり」通じて酪農家を応援 購入キャンペーン実施で中央酪農会議に寄付

同キャンペーンは、8月18日から10月31日まで行なわれたもの。購入レシートを使って特設サイト上で取得し、応募することでLINEポイント等のデジタルポイントがプレゼントされる企画。第5弾の今回は、初の試みとして応募されたシールの枚数×10円を中酪へ寄付し、酪農家への応援に充てられる。江崎グリコの担当者によると、約2万2千人が今回のキャンペーンに参加した。(12月20日号)

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円(税込・送料込)です。
- お支払(請求書到着後)は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。(見本紙にバックナンバーは含まれません)

全酪新報/
購読お申込フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

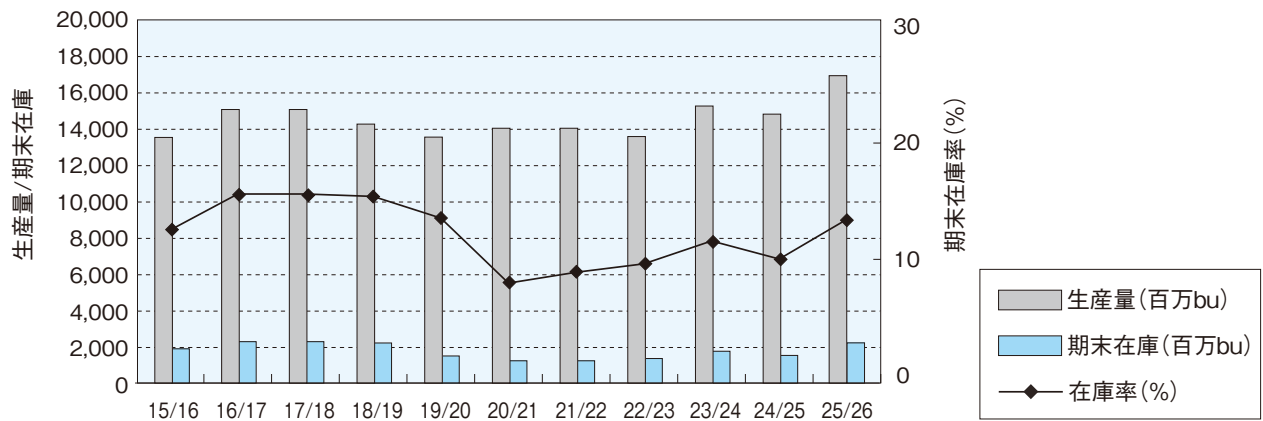
電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org



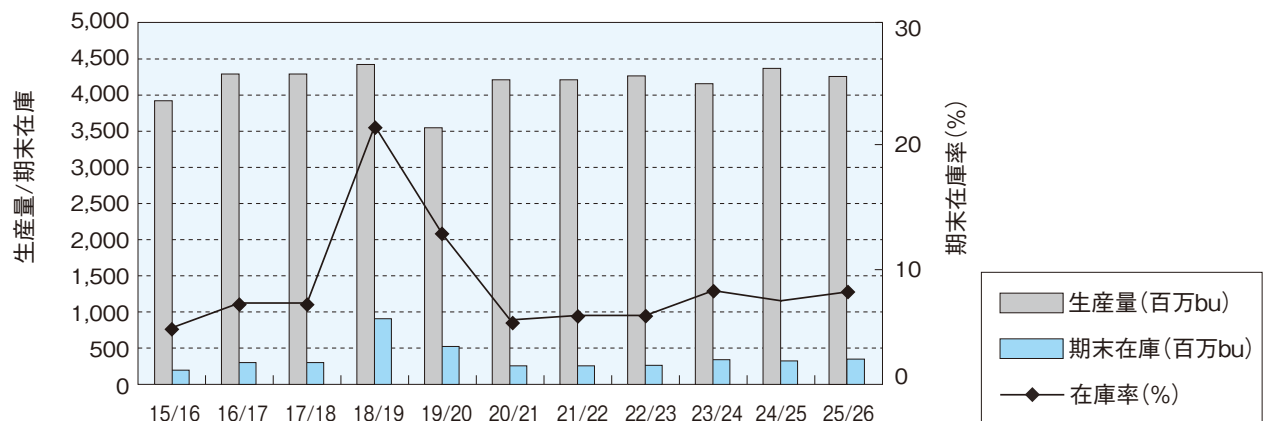


1月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		24/25年産	25/26年産
	作付面積 (百万エーカー)	90.9	98.8
	単 収 (ブッシェル/エーカー)	179.3	186.5
	生 産 量 (ブッシェル)	166億7,700万	185億9,700万
	需 要 量 (ブッシェル)	151億2,600万	163億7,000万
	期末在庫 (ブッシェル)	15億5,100万	22億2,700万
	在 庫 率	10.25%	13.60%
トウモロコシ 相場動向	新穀の作付面積・単収が共に増加し生産高見通しが事前予想を大きく上回る内容となり、シカゴ定期は大きく値を下げた。供給が潤沢にあることが意識されている中で、下値では需要が堅調なこともあり、今後はどの程度の価格に落ち着くか注視する必要がある。		
大豆粕 相場動向	シカゴ定期は以前の暴騰時よりは値を下げているが、為替円安の影響が大きく、価格は高止まりしている状況。大豆は米国が豊作、南米の天候も順調であることから、供給は潤沢にある見通し。それに伴い大豆粕の価格が下がることを期待したいが、現時点では軟化の兆しは見えない。		
糟糖類	【一般フスマ】 発生は前年並みで推移する見通し。需要については一部グルテンフィードとの置き換えが発生している模様。在庫が潤沢なため受渡は問題ないと思われる。		
	【グルテンフィード】 1月から値上げになった影響から、一部引取の減少が見られる。しかし、需給は以前締まったままとされている。遠隔地は輸入玉が入船する見込で受渡で大きな混乱はないと思われる。		
海上運賃	年末の薄商いから一転、年明けより太平洋を中心に石炭・穀物の引合いが活発化しており、堅調に推移している。原油も米国によるロシアへの追加経済制裁の報が流れると反発し強含んでいる。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





北米コンテナ船情勢	<p>北米西海岸を中心とする航路では、年末商戦の影響により港湾作業の遅延や混雑が発生しておりスケジュールに乱れが生じています。2月には中国の旧正月も控えており、旧正月が始まるまでには中国発着の貨物が増加し、旧正月中には中国に発着する貨物の流通量が一時的に低下しスケジュール調整のため本船を間引き運航する可能性もあり、動向を注視する必要があります。</p> <p>11月下旬にはロサンゼルス港停泊中の本船（ONE HENRY HUDSON）にて火災が発生し、共同海損（損害した船体や貨物の費用を荷主で公平に按分し負担する制度）が宣言されました。12月中旬には排水作業が完了し、荷卸作業も開始されていますが、積載された全ての貨物は米国沿岸警備隊（USCG）の調査のためロサンゼルス港に保管されており、本船の再出港や今後のスケジュールは依然として不透明となっています。</p>
アルファルファ	<p>25年産の収穫は終了しました。ワシントン州やオレゴン州の1番刈では春先の生育に適した冷涼な気候や好天に恵まれたものの、収穫期に降雨があり、一部の圃場で雨あたりの被害が発生しました。降雨を避けて収穫した圃場では中級品中心、降雨被害前に収穫を終えた圃場では上級品が中心に収穫されました。以降の番手でも降雨被害や山火事による煙の影響もありましたが、全体を通して良品も多く収穫されました。</p> <p>産地相場については、中東や中国、韓国から引き合いが増えてきており堅調に推移しています。</p> <p>カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは輸出向けの生産は終了しています。DIP（休耕地政策）に参加した一部の圃場では一定期間水入れを行わなかった影響により根が枯れて再播種が必要になっています。26年産でも継続してDIPが実施される見込みのため、作付面積は例年並～やや増加すると予想されています。</p>
米国産チモシー	<p>主産地であるワシントン州コロンビアベースンおよびエレンズバーグでは25年産の収穫作業が終了しました。25年産1番刈は上級品中心の発生となり、中～低級品の発生は限定的となりました。2番刈についても上級品の発生が中心となりましたが、収穫が進むにつれ雨当たりも増え、中～低級品も発生しました。カナダ産チモシーの上級品が限定的となったことから荷動きは順調に推移しており産地在庫の売約も進んでいるため、一部の輸出業者では値上げを行っています。</p>
カナダ産チモシー	<p>主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに25年産の収穫作業は終了しており、南部レスブリッジ地区の1番刈の品質は断続的な降雨の影響を受け、上級品の発生は限定的、中部クレモナ地区の1番刈の品質は中～低級品の発生が中心となりました。2番刈についても不安定な天候の影響もあり圃場での乾燥に時間を要していたことで、輸出に向かない品質が多く収穫されました。</p>
スーダングラス	<p>主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、25年産の収穫作業が終了しました。収穫された1番刈は好天に恵まれたため、上～中級品の発生が中心となり、2番刈は夏のモンスーン（季節風）による降雨もあり、輸出向けには適さない低級品が中心となり、米国内向けに出荷されました。</p>
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>産地では25年産のクレイングラスの収穫は終了しました。韓国では悪天候により、稲ワラの収量が例年よりも大きく減少していることからストロー類を筆頭にクレイングラスに対しても強い需要が出ています。また、日本からの需要も堅調に推移していることから、26年産の出荷前に産地在庫が逼迫する可能性もあるため今後の動向には注視が必要です。</p>
豪州産 オーツハイ・ ウィートストロー	<p>25年産オーツハイの収穫作業は終了しています。西豪州では収穫作業中に降雨の影響を受けた圃場もあり低級品の発生もありますが、生育期間中の好天や適度な降雨に恵まれたことにより、上級品～中級品が中心に収穫されています。南豪州では、適度な降雨もあり順調に生育が進みましたが、収穫終盤に降雨があり、中級品が中心に収穫されています。東豪州では、断続的な降雨の影響で、上級品は限定的となっています。現在も刈取後にベーリングされず放置されている圃場もあり、これらは輸出向けに適さない低級品となる見通しです。引き続き、豪州国内の酪農家からの需要も堅調に推移しているため、需給および産地相場の動向には注視が必要です。</p> <p>ウィートストローは例年より3週間遅れて収穫作業が開始されましたが、現在、天候も安定しており、良品が多く発生しています。</p> <p>豪州航路の状況は、世界的なコンテナ需要の増加に伴い、本船スケジュールの遅延が継続しています。直近では、サンクスギビングや年末商戦、旧正月の影響により、中継港において約2週間の遅延が発生しています。さらに、西豪州では小麦をはじめとする穀類が豊作となっており、大型船の手配が優先される一方で、コンテナ貨物の船腹予約は逼迫した状況が続いています。</p>

※粗飼料情勢の全文は弊社ホームページに掲載しています。

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏 名
■令和8年2月1日付異動発令		
企画管理部 総合企画室長代理	企画管理部 総合企画室長代理 兼 (株)日本ミルクプレイサー	安 藤 真 寛
企画管理部 経理課長 兼 らくのう乳業(株)	企画管理部 経理課長	松 下 裕
企画管理部 財務課長代理 兼 総合企画室 課長代理 兼 らくのう乳業(株)	企画管理部 財務課長代理 兼 総合企画室 課長代理	山 中 祐 介
企画管理部 情報システム課長代理	札幌支所 釧路事務所長	山 下 朋 哉
購買生産指導部 酪農生産指導室長代理	総務部付外向 (株)ゼン・トレーディング サンフランシスコ支店	室 田 哲 明
購買生産指導部付外向 (株)日本ミルクプレイサー 管理課長代理	東京支所 購買畜産課	鈴 木 郁 宏
総務部付外向 (一社)酪農ヘルパー全国協会 事業第一部長	購買生産指導部 酪農技術研究所	市 川 貴 英
総務部付外向 日本酪農政治連盟 事務局次長	総務部付外向 (一社)酪農ヘルパー全国協会 事業第一部長	三 枝 岳 敬
■令和8年2月1日付昇進発令		
札幌支所 次長 兼 総務課長 兼 指導組織課長	札幌支所 総務課長 兼 指導組織課長	岩 崎 正 孝
札幌支所 次長 兼 購買推進課長 兼 釧路事務所長	札幌支所 購買推進課長 兼 帯広事務所長	山 中 新
北福岡工場 製造課長	北福岡工場 製造課長代理	坂 本 純 也
■令和8年2月1日付兼務発令		
購買生産指導部 畜産課長 兼 若齢預託矢吹牧場長	購買生産指導部 畜産課長	須 藤 大 吾
札幌支所 支所長 兼 酪農課長 兼 帯広事務所長	札幌支所 支所長 兼 酪農課長	伊 尾 陽
名古屋支所 支所長 兼 指導組織課長 兼 酪農課長	名古屋支所 支所長 兼 酪農課長	下 井 泰 隆
大阪支所 支所長 兼 指導組織課長	大阪支所 支所長	蒲 田 泰 介
大阪支所 次長 兼 近畿事務所長	大阪支所 次長	佐々木 俊介
大阪支所 三次事務所長 兼 業務課長	大阪支所 三次事務所長	石 井 健 太 郎
■令和8年2月1日付兼務解除発令		
大阪支所 購買畜産課長	大阪支所 購買畜産課長 兼 業務課長	瀧 本 慎 也
北福岡工場 次長 兼 総務課長	北福岡工場 次長 兼 総務課長 兼 製造課長	松 本 悟



乳牛産地情報

令和8年2月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▲……やや弱含み ▼……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30～40	▲	札幌管内における1月中旬までの生乳生産量の前年比は、函館管内が月計95.5%・累計99.9%、苫小牧管内が月計95.6%・累計98.7%となっております。2月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は4月～5月中旬が中心となります。春分挽牛の需要が高まることから、相場は強含みで推移すると見込まれます。出回り資源につきましては、雌雄選別腹およびF1腹ともに確保可能な状況です。育成牛につきましても、堅調な相場が見込まれます。当管内には高能力牛を保有する酪農家が多く、成績が期待できる牛のご紹介も可能でありますので、導入のご要望がございましたらご注文のほど、よろしくお願いいたします。
	初妊牛	75～85	▲	
	経産牛	35～45	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30～40	▲	根釧管内における1月中旬までの生乳生産量の前年比は、釧路管内が月計100.3%・累計102.6%、中標津管内が月計98.5%・累計100.6%となっております。2月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は4月～5月中旬が中心となります。暑熱の影響による分娩時期のずれから、春分挽牛の出回り頭数は例年に比べ少なくなる見込みです。このため、相場は強含みで推移すると見込まれます。腹別では、F1腹と和牛受精卵腹の価格差が縮小しており、雌雄選別腹につきましても引き合いが強く、価格は堅調に推移すると見込まれます。育成牛につきましては、来春春分挽予定牛が中心となることから、相場は堅調に推移する見通しです。
	初妊牛	75～85	▲	
	経産牛	45～55	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	30～40	▲	帯広管内における1月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.6%・累計102.4%となっております。2月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は4月～5月中旬が中心となります。道内外における春分挽牛の需要増加により、引き合いは強まり、相場は強含みで推移すると見込まれます。出回り資源につきましては、雌雄選別腹およびF1腹ともにございますが、地域による偏りが見られます。和牛受精卵腹につきましては、引き合いが強く、価格の上昇が見込まれます。育成牛につきましては、春生まれ牛が中心となるため、堅調な相場となっております。即戦力となる経産牛につきましても、引き続き引き合いが強く、相場は強含みで推移する見通しです。
	初妊牛	75～85	▲	
	経産牛	45～55	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30～40	▲	道北管内における1月中旬までの生乳生産量の前年比は、稚内管内が月計102.3%・累計101.4%、北見管内が月計100.0%・累計101.5%となっております。2月の初妊牛の動向につきましては、分娩時期は4月～5月中旬が中心となり、春分挽牛が出回り始めます。前年7月の記録的な高温による暑熱の影響が顕著に現れており、春分挽牛の出回りは例年に比べ少ない状況です。このため、相場は強含みで推移すると見込まれます。経産牛につきましては、乳価上昇を背景に秋口にかけて即戦力牛への需要が高まる見通しであり、価格は堅調かつ強含みの展開が予想されます。
	初妊牛	70～80	▲	
	経産牛	45～55	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30～40	▲	道内全体における1月中旬までの生乳生産量の前年比は、月計99.4%・累計101.5%となっております。2月の初妊牛の動向につきましては、全体的に強含みの価格帯で推移する見込みです。春分挽牛を中心とした出回り資源の少なさに加え、大型牧場による育成牛の購買増加により引き合いが強まっております。この影響を受け、販売用初妊牛の価格も堅調に推移する見通しです。初妊牛相場の高騰に伴い、即戦力となる経産牛への需要も強まると予想されることから、搾乳用素牛全般で引き合いが強まるものと見込まれます。導入をご希望の場合は、お早めのご注文をお願いいたします。
	初妊牛	75～85	▲	
	経産牛	45～55	▲	

お詫びと訂正

本紙1月号(No.724)29ページの全酪新報ダイジェスト版の左上に掲載した資料について、都府県の1頭当たり面積に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正いたします。

＜誤＞ 酪農の成牛舎及び搾乳施設の整備を支援。国産飼料基盤(北海道40a/頭、都府県107a/頭)を要件

＜正＞ 酪農の成牛舎及び搾乳施設の整備を支援。国産飼料基盤(北海道40a/頭、都府県10a/頭)を要件

今月の表紙

今月の表紙は「第15回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「双子の戯れ」(石川県西出穰氏撮影)です。



編集後記

- 暦の上では春を迎える2月ですが、まだ寒さが残る時期です。体調管理には十分ご留意ください。
- 今年も「らくのうこどもギャラリー」と「酪農いきいきフォトコンテスト」の作品募集が始まりました。入賞作品は当会報の表紙・裏表紙を飾りますので、ぜひご応募ください。また、3月中旬から各地域で開催される「酪農青年女性会議の酪農発表大会」の日程も掲載しております。この頃には暖かい日も増えてくる時期かと思っておりますので、皆さまお誘い合わせのうえでご参加いただければ幸いです。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和8年2月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 2月号 No.725

● 編集・発行人 飯島洋一

● 発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館

TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

第53回

全国酪農青年女性 酪農発表大会

in
沖縄

令和8年

7/9 木
10 金

日程

7月9日 木

13:00～13:45 開会式
13:45～15:45 酪農経営発表
16:00～17:55 酪農意見・体験発表
19:30～22:30 懇親会

7月10日 金

9:00～10:30 審査講評・表彰式・閉会式

大会会場・アクセス

会場

「ロワジールホテル那覇」

〒900-0036

沖縄県那覇市西 3-2-1

Tel 098-868-2222 (自動ガイダンス)



アクセス

それぞれ那覇空港より

- ゆいレールの場合
旭橋駅から徒歩約15分
- 車の場合
うみそらトンネル経由で
約7分。



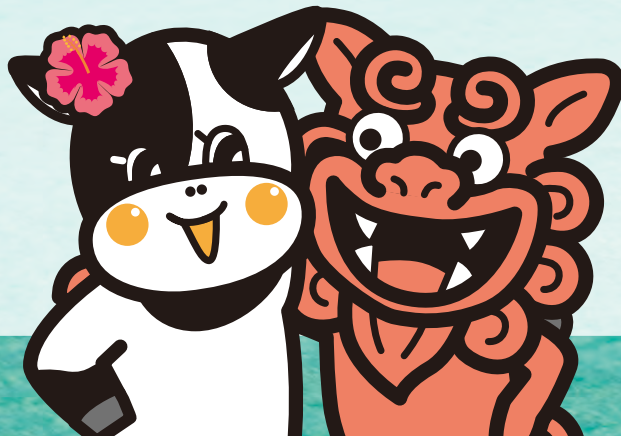
大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ)

1名 **20,000円** (大会・懇親会)

※懇親会は3時間です。

※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。



作品募集のお知らせ

第52回

らくのう こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。**
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和8年5月29日(金) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第51回 特選
「うしさん」
村上陽香さん

第16回

酪農いきいきフォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
 - (2)「酪農作業風景」
- ※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**

(4)応募点数：お1人様1作品のみ

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和8年6月22日(月) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。



第15回 特選
「がんばれ〜牛さん」
吉田明美氏 撮影

または、下記応募フォームからもご応募可能です。

➡<https://form.run/@zen-rakuseijo-isrslv40YR7rip9DTG2w>



⑥ 審査方法

応募作品を「第53回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。

※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「全酪連会報」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

⑧ 褒賞

- ・特選 1点
 - ・入選 若干
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町
2丁目10番28号 カメイ仙台グリーンシティ8階
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



牛の親子

浜松市立新原小学校 3年（中部） 森嶋洵晴

今月の入賞作品は…

浜松市立新原小学校 3年（中部）の森嶋洵晴さんの作品です。

牛さんの親子が切り絵で表現された作品です。紙をちぎっては貼り、絵に厚みも加わり手作業の楽しさが伝わってきます。牛舎内部の鉄柵がグレーの絵の具で描かれ、背景は黄色いクレヨンで塗られ、作品の仕上げに向けた試行錯誤の跡が見て取れます。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第51回らくのうこどもギャラリー」で全国304点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議